九州大学法学部
東京同窓会会報

第18号
平成26年10月１日

九州大学法学部　東京同窓会

平成25年度　総会・講演・懇親会報告
「大学も同窓会も変化と挑戦へ」

平成25年11月21日（木）法学部東京同窓会の平成25年度総会・講演・懇親会は約60名の参加の下、学士会館にて開催された。

第１部総会

（１）議事

①事業報告：北大との合同セミナー（第13回）と合同報告会（第８回）の開催。他学部、他地区また本部との交流状況の報告と今後の予定について。

②会計報告：平成24年度の収入は年会費収入が大幅に減少したことにより、次年度繰越は1,395,284円と大幅減となった。同窓会活動の運営に支障を来すことの無いよう、皆様の会費納入の励行を強くお願いしたい。

③役員体制：会長の交代と理事・副会長　木下　昌浩氏の退任が承認議決された。

（２）新旧会長挨拶

岡部正彦前会長「在任中の会員皆様、特に同期36年卒の皆様の絶大なる応援、協力に感謝」。

古川治次新会長「新任に当たっての決意。東京同窓会のあり方、法学部東京同窓会のあり方についての再考の必要性。会員皆様のサポートの要請」。

第２部講演会

講師：松原俊孝教授（九大韓国研究センター長）

演題：「海峡あれど国境なし」

…九州大学「躍進百大」構想との連動

（１）「躍進百大」と現状

・世界の大学中、九大は北大と並び301～350番台であり、他の旧帝大、東大、京大、東北大、阪大、名大に及ばない。アジアの大学でも香港、シンガポール、ソウル、ペキン、台湾は２桁台である。

自立型からハブ型へ…①発展性　②多面性　③重層性への転換が必要。

・九大の理系は・水素エネルギー研究　・有機エレの取り組み等世界NO.1的なものがあるが、文系の世界的な取組・研究は？

・アジアに強い大学を目指すべきこと（福岡はアジアのゲートウェイ）、他との差別化。

・英語力を大学全体で高め、国際化改革が必須であること（留学生、外国人研究生にも魅力ある環境づくり、ユニット別国際共同研究の推進、国際的研究交流、海外研修等）。

（２）韓国研究センターの現状と方向性

「海峡あれど国境なし」…将来の安定に向けて東アジアの進路

・経済、教育、交通の統合を含めた、福・釜超広域圏創りの提唱

・福・釜フォーラムの提案（事務局：九大韓国研究センター）

・日韓海峡圏カレッジ…

①日韓海峡人の意識醸成②アジアに強いリーダーの養成

（３）同窓会の皆様へお願いしたいこと…愛校心・モラールサポート・ドネーション。

第３部懇親会

（１）来賓挨拶

・九大大学院法学研究院長　酒匂　一郎教授

「文科省は、海外からの留学生を日本に、日本人を国際人に、との方針を出している。

九大でも英語での入試を進め、一方でグローバルな学生の育成に取り組んでいる。

在学生への奨学金制度として『山川賞』を創り、取得者には100万円／年提供している」。

・九大法科大学院長　赤松　秀岳教授

「六本松移転に伴う募金は目標１億円に対し現在500万円である。来年３月には着工の予定。釜山大ロースクールとは２年前より交流を実施している」。

（２）他の来賓紹介

・法学部関西支部　石橋　勝氏

・経済学部同窓会東京支部事務局長　吉元　利行氏

・　〃　事務局次長　川原　晃氏

上野　至理事（昭和37年卒　弁護士）の乾杯の音頭でお待ちかねの「懇親会」が始まった。

今回は新旧会長交代や講演会も実施したので６テーブルの着席式とした（交流を念頭に）。

アサヒビールの池田会長からビールのご寄贈を頂き、松原先生の講演で興奮気味の会員は老若男女揃って交流を深め気焔を吐き、和気藹々の中、松原教授持参のＤＶＤで伊都キャンパスに思いを馳せた。

恒例の学生歌「松原に」を高らかに斉唱し、川崎　靖理事（昭和31年卒）のご挨拶で閉会となった。興奮冷めやらぬ16名ほどは赤松、松原両先生を囲んで２次会へと行った。

世戸　哲郎（昭和42年卒　理事・事務局長）

同窓会行事ご案内

平成26年法学部東京同窓会総会・懇親会

平成26年11月20日（木）　学士会館203号室

総会18：30　懇親会19：00

Summer Festa2014の推進に当たり

企画・推進チーム、楢﨑　光雄

今年は363名もの方が参加して下さったこと、これが最大のエポックでした。昨年までは東京同窓会の懇親会は新年会も行い年２回やっていたが、本年からはSummer Festaのみとなった。

それだけに恥ずかしくないものにしよう、喜んで頂けるものにしようと、企画・準備にも力が入った。現在10数名の若手に当推進チームのメンバーになって頂き、其々に担当分野を持ってもらい進めている。準備は５月のゴールデンウィーク明けから始まり、会場チェックも含め15回の会議を持った。メンバーは皆、仕事もこなしながらこの準備作業も行う訳で、そのピークには深夜までの体力の限界に挑む様な局面があったが良く其々の受け持ちを全うしてくれた。何はさておきまずはこのメンバーの労苦を讃えたい。次に、

今回のSummer Festaは参加者数では大成功であったとも言えるが、それ程までの人数を想定しておらず、会場が手狭となったり食事が足りなかったりと参加して頂いた方にご迷惑をお掛けする結果ともなった。原因は当日欠席、所謂、ドタキャンが従来に比べ、極端に減ったことによるが、参加者数をどう読めばいいのか大きな課題となった。最後になったが、同じくこの会のPRに尽力して下さった同窓会各理事の皆様にも感謝したい。ともあれ、東京同窓会設立10周年の記念イベントを多くの参加者の方々と楽しめたことを有難く思っています。

平成25年度九州大学法学部東京同窓会役員

役　職	卒　年	姓　名	勤務先・役職
理事・会長	昭37	古川　洽次	日本郵便(株)／顧問　三菱商事／顧問
理事・副会長	昭28	黒田　節哉	虎ノ門法律経済事務所／弁護士
理事・副会長	昭44	櫻井(藤井)龍子	最高裁判所／判事
理事・顧問	昭29	近藤　秋男	ＡＮＡホールディングス(株／名誉顧問)
理事・顧問	昭33	古川　貞二郎	恩賜財団母子愛育会／理事長
理事・顧問	昭36	岡部　正彦	日本通運㈱／相談役
理事	昭29	星山　芳幸	(元)三菱信託銀行　不動産鑑定士
理事	昭31	川崎　靖	(元)日証金／専務
理事	昭34	田坂　和義	中央労務管理協会
理事	昭36	沖田　悌司郎	特定非営利活動法人ＮＰＯ事業協議会／副理事長
理事	昭37	上野　至	上野法律事務所／弁護士
理事	昭37	中嶋　郁夫	中嶋法律事務所／弁護士
理事・事務局次長	昭37	橋詰　隆志	(元)(株)日立製作所
理事	昭38	奥　毅	ＭＯＳ合同法律事務所／代表弁護士
理事・会計監査	昭41	戸澤　眞也	(元)郵政省
理事・事務局長	昭42	世戸　哲郎	(元)住友商事(株)　樹木医・森林インストラクター
理事・会計監査	昭43	中村　淳二	税理士　(元)(株)間組
理事	昭46	楢崎　光雄	曙工業(株)
理事	昭50	横山　敬一郎	(株)日通総合研究所／代表取締役社長
理事	昭52	小林　健明	ＪＦＥ電磁鋼板(株)東京本社　経営企画部主査（部長）
理事	平2	實藤　政子	(株) オプソル・ジャパン／取締役
理事	平7	富永　賢治	ＳＡＰ・ジャパン㈱／法務部
理事	平19	辰野　雅史	双日(株)法務部
理事	平21	羽田野　晶子	弁護士

法学部関西支部　第34回同窓会総会に出席して

平成26年５月23日(金)18時より、会員29名、来賓５名の計34名（内女性１名、平成卒３名）による上記同窓会が、ハートンホテル南船場にて開催されました。

⑴ 第１部総会

①徳永幸彦支部長（S34卒）より、ご挨拶があり、「変わりゆく九大」に就いて、在学中、向坂　逸郎教授が「30年後には我が国でも革命が起こる」と隔世の感ある講義内容や、宇宙飛行士　若田　光一氏が約半年に亘るISSコマンダーの任務を終え無事帰還されたこと（ノーベル賞にも勝る偉業である）、また籾井　勝人氏がNHK会長に就任されたこと等の九大卒業生の活躍を語られました。

また伊都キャンパス移転、六本松リーガルパークへの法科大学院移転に就いても言及されました。

②来賓代表として法学部同窓会　陶山　秀昭会長（Ｓ42卒）より、椎木講堂開設（3,000人収容）、文系の伊都移転は現在整地中であり、移転は農学部と同時期の平成29～30年の見込みについて説明があり、大学を支える同窓会の存在意義の認識と発展・活性化のための知恵と工夫の必要性に就き熱く述べられました。

⑵ 第２部講演会

三共生興㈱川崎賢祥社長（Ｓ42文卒）より「泣かない、逃げない」をモットーにした、ユニークな回顧物語の講演がありました。学生時代に初代応援団長になり、資金集めに総長との直談判されたこと、就職に当たって法学部　高田　源清教授の助力があったこと、そして三共生興㈱に入社し「債権回収の鬼」と呼ばれるようになった、幼児より「喧嘩の仕方」を知り「ノボセモン、ニアガリモン」でもある「九州男児の生き様」から英国の名門「ダックス」社の完全買収に至る「ピンチをチャンス」と捉え見事に勝利される活劇談に会場中皆固唾を飲んで聞き入りました。

⑶ 第３部懇親会

法科大学院長　田淵　浩二教授（新任）から、1924年の法文学部設置から今年は90周年に当たることが述べられ、法学部卒業生の意識の変化（特に法曹になるというのはシンドイ意識の蔓延）に就いての憂慮すべき（？）傾向の話がありました。

大学の現状に就いては「九大広報」以上の臨場感あふれる報告がありました。

特にグローバル化が想像以上に現実化していることには驚きました。

①グローバル30

②GV（Gloval Vantage）プログラム

③20%の英語講座等

川崎初代応援団長のエールで「松原に」斉唱で終宴

世戸　哲郎（昭和42年卒　理事・事務局長）

平成26年　経済学部東京支部同窓会・懇親会

経済学部東京支部同窓会のメイン・イベント「七夕総会」が７月７日(月)午後６時より学士会館にて予定どおり開催されました。来賓として本学から９名、関西支部から２名、福岡支部から１名、九大東京同窓会から１名、法学部東京同窓会から１名の出席、全体の出席者は88名（来賓15名含む）でした。

恒例通り、先ず講演がありました。今年は九州電力会長「貫正義」様が講師でテーマは「我が国のエネルギー政策を考える」(副題　電気事業をめぐる課題）でした。やはり、原子力なしではやっていけないという結論でした。(燃料コスト原油約20円、原子力１円・１kwh)

其の後、懇親会となりました。今年から支部長が籾井勝人（ＮＨＫ会長）様になり、前支部長の池田弘一様は顧問になられました。籾井支部長の挨拶に関心が集まりましたが、ＮＨＫ会長については「もう大丈夫」と自信を持たれているようでした。尚、籾井様には今年から九大東京同窓会の会長にも就任されています（岡部会長の後任)。

因みに、東京同窓会の事務局長も世戸法学部東京同窓会事務局長より杉経済学部東京支部副支部長へ交代となっております。法学部東京同窓会の事務局の立場で見てみると経済学部東京支部の同窓会は役員に若い人、例えば平成卒の理事他役員が17人（法学部は４人）居り、又、当日の参加者名簿で見ると72人の出席者（之も法学部より多いが）中31名が平成卒となっており、同窓会の若返りが図られていて、羨ましいと感じました。吉元幹事長に聞くと大学の卒業式の時に出かけて行き、東京地区に就職する人と接触を図っている等の努力をしているとの話でした。

法学部東京同窓会も今のままでは益々高齢化し、同窓会そのものも衰退していくのではないか、対策を講じなければならないと感じました。

橋詰　隆志（昭和37年卒　理事・事務局次長）

平成25年　広島地区九大法・経同窓会

平成25年11月８日に第35回広島法・経同窓会が開催された。広島地区同窓会としては此の法学部・経済学部合同の同窓会が文系として唯一の同窓会である（法経だけでなく、文学部・教育学部の人も申込あれば参加自由、この日も文学部の女性が１人参加)。

地元企業所属乃至法曹界の人達のメンバーが多いが、特に特徴的なのは中国電力に勤務の九大人が中心になって運営されている。現在の苅田会長（法47年卒）も中国電力現社長の方である。(元会長は多田様でこの方も中国電力の社長をされていた。）法経で約250名位の会員数であるが、その内平成卒の方が約70名程度登録されている。これは、法学部東京同窓会に比べ特筆すべき事である。

恒例通り、苅田会長の同窓生の絆を強めて行こうの挨拶、会務報告、来賓挨拶（酒匂九大法学研究会長、陶山本学同窓会会長、山本経済学研究院長、橋詰法学部東京同窓会事務局次長）が有り、新玉副会長（経済31年卒）の乾杯発声で懇談に入った。

現在会員数は法学部142名、経済学部100名、文学部、教育学部15名（オブザーバー扱い、積極的に呼びかけてはいないが、友人、会社の関係で参加)。

この日は来賓４名を加え42名の参加者であった。又、平成卒が９名出席であり、結構若返っている感じであった。この内10名が中国電力の方で、同窓会事務局及び事務局員の全て中国電力で運営されている。

会は６テーブルに分かれ、矢張り、久し振りの顔合わせで、昔話に花が咲いたようであった。

２次会にも参加し、苅田会長とも話す機会があったが、中国電力は原子力依存度は低いが、それでも、矢張り今後の原子力発電がどうなるかに深い関心を寄せられていた。

広島法経同窓会への出席は今回で２回目であったが、250名のこじんまりした同窓会であるが、若い人も多く、中国電力のバックに今後も発展する将来も発展の期待が持てる同窓会である。

橋詰　隆志（昭和37年卒　理事・事務局次長）

会費納入のお願い

役員一同法学部東京同窓会の充実に努力しています。大学の法人化にともない、大学にとり同窓会は非常に重要な組織となります。平素よりご高配頂いていますが、会費（年間2,000円）の納入についてどうかよろしくお願い申し上げます。

九州大学法学部東京同窓会会報　vol.18
発行日：平成26(2014)年10月1日　第18号　発　行：〒101－8459 東京都千代田区神田錦町3-28　学士会館B1　九州大学連絡事務所内　TEL＆FAX03－5283－8510
E-mail:kdhtokyo@horae.dti.ne.jp　URL：http://www.horae.dti.ne.jp/kdhtokyo/　編集：法学部東京同窓会事務局　印刷所：小野高速印刷株式会社